

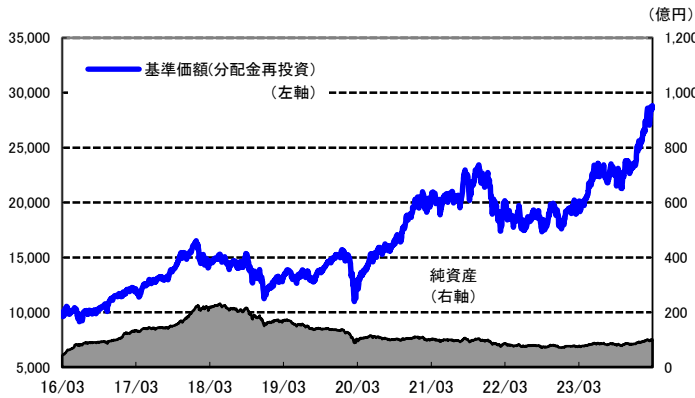


運用実績

2024年3月29日 現在

運用実績の推移

(設定日前日=10,000として指数化:日次)



・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

基準価額※ 22,465 円

※分配金控除後

純資産総額 100.7 億円

- 信託設定日 2016年4月1日
- 信託期間 2026年3月23日まで
- 決算日 原則3月、9月の23日
(同日が休業日の場合は翌営業日)

騰落率

期間	ファンド
1ヵ月	5.0%
3ヵ月	22.1%
6ヵ月	28.3%
1年	43.4%
3年	42.8%

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

分配金(1万円当たり、課税前)の推移

2024年3月	590 円
2023年9月	450 円
2023年3月	300 円
2022年9月	310 円
2022年3月	280 円

設定来 188.4%

設定来累計 4,120 円

設定来=2016年4月1日以降

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

資産内容

2024年3月29日 現在

資産・市場別配分

資産・市場	純資産比
株式	98.0%
東証プライム	95.0%
東証スタンダード	3.1%
東証グロース	-
その他	-
株式先物	-
株式実質	98.0%
現金等	2.0%

・株式実質は株式に株式先物を加えた比率です。

業種別配分

業種	純資産比
電気機器	44.3%
機械	21.2%
輸送用機器	9.0%
非鉄金属	4.7%
化学	3.9%
その他の業種	15.0%
その他の資産	2.0%
合計	100.0%

・業種は東証33業種分類による。

・純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

テーマ別配分

テーマ	純資産比
産業ロボット	25.2%
AI・IoT	24.9%
自動運転	44.5%
インフラ・サービス	3.4%
その他の資産	2.0%
合計	100.0%

組入上位10銘柄

2024年3月29日 現在

銘柄	業種	市場	テーマ	純資産比
ディスコ	機械	東証プライム	自動運転	9.5%
日立製作所	電気機器	東証プライム	AI・IoT	9.4%
ソニーグループ	電気機器	東証プライム	自動運転	5.4%
トヨタ自動車	輸送用機器	東証プライム	自動運転	4.9%
TDK	電気機器	東証プライム	自動運転	4.4%
SMC	機械	東証プライム	産業ロボット	3.9%
キーエンス	電気機器	東証プライム	産業ロボット	3.4%
東京エレクトロン	電気機器	東証プライム	自動運転	3.3%
日本電気硝子	ガラス・土石製品	東証プライム	AI・IoT	3.1%
ソフトバンクグループ	情報・通信業	東証プライム	AI・IoT	2.9%
合計				50.3%

組入銘柄数: 50 銘柄

・業種は東証33業種分類による。

・純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は 野村アセットマネジメント

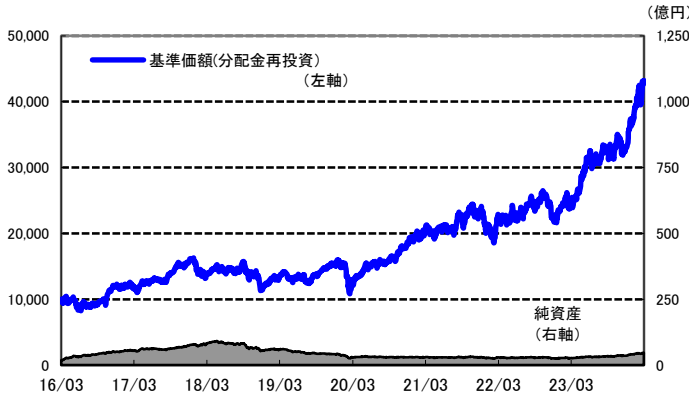
商号 野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
一般社団法人投資信託協会会員 / 一般社団法人日本投資顧問業協会会員
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員



運用実績

2024年3月29日 現在

運用実績の推移 (設定日前日=10,000として指数化:日次)



・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

基準価額※ 32,769 円

※分配金控除後
純資産総額 46.2 億円

- 信託設定日 2016年4月1日
- 信託期間 2026年3月23日まで
- 決算日 原則3月、9月の23日 (同日が休業日の場合は翌営業日)

騰落率

期間	ファンド
1ヵ月	6.2%
3ヵ月	31.6%
6ヵ月	32.5%
1年	70.7%
3年	109.5%

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

分配金(1万円当たり、課税前)の推移

年月	分配金
2024年3月	1,060 円
2023年9月	830 円
2023年3月	500 円
2022年9月	580 円
2022年3月	350 円

設定来 332.3%

設定来累計 5,470 円

設定来=2016年4月1日以降

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。
※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

資産内容

2024年3月29日 現在

資産・市場別配分

資産・市場	純資産比
株式	89.7%
東証プライム	86.9%
東証スタンダード	2.8%
東証グロース	-
その他	-
株式先物	7.4%
株式実質	97.1%
現金等	10.3%

・株式実質は株式に株式先物を加えた比率です。

業種別配分

業種	純資産比
電気機器	40.5%
機械	19.4%
輸送用機器	8.3%
非鉄金属	4.3%
化学	3.6%
その他の業種	13.7%
その他の資産	10.3%
合計	100.0%

・業種は東証33業種分類による。

テーマ別配分

テーマ	純資産比
産業ロボット	23.1%
AI・IoT	22.8%
自動運転	40.7%
インフラ・サービス	3.1%
その他の資産	10.3%
合計	100.0%

米ドルのエクスポージャー比率 99.3%

・為替取引による米ドルの買い相当額の合計の純資産比です。

・純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

組入上位10銘柄

2024年3月29日 現在

銘柄	業種	市場	テーマ	純資産比
ディスコ	機械	東証プライム	自動運転	8.7%
日立製作所	電気機器	東証プライム	AI・IoT	8.6%
ソニーグループ	電気機器	東証プライム	自動運転	5.0%
トヨタ自動車	輸送用機器	東証プライム	自動運転	4.5%
TDK	電気機器	東証プライム	自動運転	4.1%
SMC	機械	東証プライム	産業ロボット	3.5%
キーエンス	電気機器	東証プライム	産業ロボット	3.1%
東京エレクトロン	電気機器	東証プライム	自動運転	3.0%
日本電気硝子	ガラス・土石製品	東証プライム	AI・IoT	2.9%
ソフトバンクグループ	情報・通信業	東証プライム	AI・IoT	2.6%
合計				46.1%

組入銘柄数: 50 銘柄

・業種は東証33業種分類による。
・純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

ファンドは、変動のある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は 野村アセットマネジメント

商号 野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
一般社団法人投資信託協会会員 / 一般社団法人日本投資顧問業協会会員
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員



東証株価指数(TOPIX)(日次)

2024年3月29日 現在



東証株価指数(TOPIX)の推移

東証株価指数(TOPIX)	月間騰落率
2,768.62	3.5%

米ドル(対円レート)(日次)

2024年3月29日 現在



米ドルの推移

米ドル	月間騰落率
151.41	0.5%

当資料は、野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等は、当資料作成時のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

商号 野村アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
 一般社団法人投資信託協会会員/一般社団法人日本投資顧問業協会会員
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員



先月の投資環境

○ 3月の国内株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が月間で3.47%上昇し、月末に2,768.62ポイントとなりました。

○ 3月の国内株式市場は上昇しました。月初は、前月末からの流れを引き継ぎ上昇し日経平均株価は4万円台まで上昇しましたが、日銀の金融政策修正への不透明感などから下落に転じました。中旬には、日銀の金融政策決定会合においてマイナス金利解除やETF(上場投資信託)の新規買入終了などが決定されましたが、当面は緩和的な金融環境が維持されるとの見方が広がりました。低金利の継続見通しが好感された不動産株や、円安・米ドル高が進行したことで採算改善が期待された輸出関連株などを中心に上昇しました。その後も、FOMC(米連邦公開市場委員会)の2024年の利下げ回数予想に変化がなかったことなどが好感されて上昇を続けました。月末にかけては、機関投資家のリバランス(資産の再配分)による株式売却などの需給悪化懸念から下落したものの、月間では3ヵ月連続の上昇となりました。

○ 東証33業種で見ると、低金利継続や公示地価上昇などが好感された不動産業など28業種が上昇しました。一方で、海運市況の下落が嫌気された海運業など5業種が下落しました。

先月の運用経過

(運用実績、分配金は、課税前の数値で表示しております。)

○ 円投資型の月間騰落率(分配金再投資後)は+4.96%となりました。投資しているマザーファンドの値上がりがプラスに寄与しました。

○ 米ドル投資型の月間騰落率(分配金再投資後)は+6.21%となりました。投資しているマザーファンドの値上がりと為替の円安がプラスに寄与しました。

○ マザーファンドは、半導体製造装置株などの値上がりがプラスに寄与しましたが、FA(ファクトリーオートメーション)株などの値下がりがマイナスに影響しました。

○ 主な売買では、ガラス・土石製品株を買い付けし、化学株を売却しました。

○ 業種別配分は、電気機器、機械、輸送用機器などを中心に投資しました。

今後の運用方針 (2024年4月2日 現在)

(以下の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。)

○ 今後の投資環境

日本経済は緩やかな成長を続けています。2024年春闘の平均賃上げ率は前年比+5.25%となりました。2月の消費者態度指数は5ヵ月連続で上昇しており、消費マインドも改善を続けています。6月の定額減税も含めた実質的な所得改善を受けて、個人消費の回復は強まるとみており、2024年度前半の成長率を押し上げると考えています。日銀は、3月の金融政策決定会合でマイナス金利の解除を決定しました。2%の物価安定の目標が持続的・安定的に実現していくことが見通せる状況となったことが主な背景です。今後は短期金利水準の引き上げと長期国債買入れ減額が焦点となります。特に、短期金利引き上げは住宅ローン金利など実体経済に悪影響を及ぼす可能性があり、注意が必要です。当社では政策金利を7月に0.25%程度へ利上げされる可能性があるかとみていますが、その後、当面は同程度の金利水準が維持されると予想しています。当社では、2024年の日本の実質GDP(国内総生産)成長率を前年比+0.4%と予想しています。

2023年度の予想経常利益は前年度比9.3%増(野村証券金融経済研究所予想によるRussell/Nomura Large Cap[除く金融]、3月29日時点)、2024年度は同5.9%増(同上)となることが予想されます。

○ 運用方針

国内株式市場は、国内の物価上昇が広がりを見せる中、日本企業の資本効率改善への期待などから外国人投資家からの注目度が高まっています。各国の中央銀行による金融引締策の強化などを背景に今後の景気減速が懸念されていますが、実体経済は急速に悪化することなく底堅く推移しています。今後は内需産業が堅調に推移する中で、外需産業も広い分野で需要が回復していくとみており、株式市場は上昇基調が続くと想定しています。組み入れにあたっては、ロボット関連技術に携わる企業だけでなく、ロボット関連技術を活用することでビジネスの拡大・効率化が期待できる企業を積極的に発掘し、関連産業の成長を捉える方針です。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は 野村アセットマネジメント

商号 野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
一般社団法人投資信託協会会員/一般社団法人日本投資顧問業協会会員
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員



組入上位10銘柄の解説

2024年3月29日 現在

組入銘柄	組入銘柄解説
1 ディスコ	「切断・研磨・研削の技術を活かして半導体の高機能化を支援し、自動運転の実現に貢献」 日本を代表する半導体製造装置メーカー。切る・削る・磨くの3つのコア技術を強みに世界シェア首位の製品群を多数有する。自動運転や脱炭素化の実現に向けた半導体の高機能化をサポート。化合物半導体向けの装置や消耗品の売上拡大にも注目。
2 日立製作所	「IoT(モノのインターネット)プラットフォームの拡大によって、顧客と社会のDX(デジタルトランスフォーメーション)を実現」 IoTプラットフォームの「Lumada」を中心に、顧客が有するビジネスデータや生産現場における工場データを収集・可視化・分析することでDXを推進し、顧客と社会の課題解決を目指す。
3 ソニーグループ	「クルマの目に参入。自動運転技術の中核部品である画像センサーを手掛ける」 CMOSイメージセンサーで高い市場シェア。監視カメラ向けに加えて、FA、ドローン、車載分野向けの用途拡大に注力。
4 トヨタ自動車	「交通事故ゼロに向けて、安全を重視した高度運転支援技術の開発と搭載を進める」 運転者の安全・安心を支えるチームメイトをコンセプトにした高度運転支援技術を開発し、搭載車種を拡大中。また、自動運転技術を活かしてロボタクシーなどの新規事業の検討も進めている。次世代自動車のEV(電気自動車)の販売拡大にも注目。
5 TDK	「センサーやコンデンサなどの電子部品で自動運転の実現に貢献」 センサーやコンデンサ、リチウムイオン電池などを製造する電子部品企業。自動運転の実現に向けて高精度なモーションセンサーや気圧センサーなどを開発し、それらを組み合わせたソリューション展開も進めている。
6 SMC	「製造業をはじめ食品や医療機器などのあらゆる産業分野の自動化・省力化に貢献」 圧縮空気の圧力を利用して物を押す・つかむ・回すといった人の手に代わる作業をする空気圧機器など、自動制御機器の製造・販売を行なう大手企業。世界シェアは約4割で、今後もシェア拡大を目指す。
7 キーエンス	「独自開発のセンサーや画像処理機器を軸とした直販ビジネスモデルで工場の自動化に貢献」 営業担当者が直接生産現場に足を運ぶ直販体制、ファブレスによる柔軟な生産体制、新商品の7割が世界初となる革新的な商品開発といった営業重視のビジネスモデルで顧客の課題とニーズを捉え、工場の自動化を実現。
8 東京エレクトロン	「半導体の技術革新をリードし、自動運転の実現をサポート」 日本を代表する半導体製造装置メーカーで、世界シェア1位や2位の製品群を有する。装置の製造・販売だけでなく技術サポートも行なうことで半導体企業のパートナーとして技術革新を支え、自動運転の実現に貢献。
9 日本電気硝子	「高機能ガラスを通じて半導体の性能向上を支援」 ディスプレイ向けガラスなどスペシャリティガラスの専門メーカー。半導体の性能向上に向けて平坦性や熱膨張特性のコントロール性に優れた高機能ガラスの需要が拡大中。既存事業の固定費削減策を含めた事業ポートフォリオ改革にも注目。
10 ソフトバンクグループ	「情報革命の資本家として、AI(人工知能)・IoT関連企業の成長を支える」 AI・IoT、EC、フィンテック、モビリティ、ヘルスケアなどの各領域において優れたテクノロジーやビジネスモデルを有する企業に投資を行ない、投資先企業の事業拡大や投資先企業間のシナジー創出を目指す。

(出所)「組入銘柄解説」は、各社ホームページ等の情報に基づき野村アセットマネジメントが作成しています。

(注)当資料はファンドの上位組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

商号 野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
一般社団法人投資信託協会会員/一般社団法人日本投資顧問業協会会員
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員



ファンドの特色

- 信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。
- 主要投資対象
【円投資型】
わが国の株式を実質的な主要投資対象*とします。
【米ドル投資型】
わが国の株式を実質的な主要投資対象*とし、選択権付き為替予約取引等の外国為替に関するデリバティブ取引を主要取引対象とします。
・株価指数先物取引および外国為替予約取引等を活用する場合、短期有価証券ならびに短期金融商品等に投資する場合があります。
※「実質的な主要投資対象」とは、「ロボ・ジャパン マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
- ファンドは、円建て資産について為替取引を行わない「円投資型」と、円建て資産について、選択権付き為替予約取引等の外国為替に関するデリバティブ取引を活用し、米ドルへの投資効果を追求する「米ドル投資型」があります。
- 銘柄の選定にあたっては、わが国の株式の中から、産業用・サービス用等のロボットの製造、あるいは部品やソフトウェア等の関連技術に携わり今後の活躍が期待できる企業、また、ロボットおよび関連技術を活用することでビジネスの拡大・効率化が期待できる企業に着目します。
※当面は、ロボット、自動運転およびAI(人工知能)・IoT(モノのインターネット化)等の優れた技術を有し、今後の活躍が期待できる企業、ならびにこれら企業の技術革新や産業構造の変革に伴う生活スタイルの変化により恩恵を受けてビジネスやサービスの拡大・効率化が期待できるインフラ・サービス等に関わる企業に注目します。
*当ファンドにおいて、ファンド名称にある「ロボ」とは、ロボットのことを指し、人間のサポートあるいは人間の代替として様々な課題に対するソリューションを提供する手段をいいます。
- ポートフォリオの構築にあたっては、企業の競争力および業績動向やバリュエーション等を総合的に勘案して組入銘柄および組入比率を決定します。
- 円投資型
◆株式の実質組入比率は、原則として高位を基本とします。
- 米ドル投資型
◆円建て資産について、選択権付き為替予約取引等の外国為替に関するデリバティブ取引を活用し、米ドルへの投資効果を追求します。なお、外国為替予約取引等を活用する場合があります。
 - ・信託財産の純資産総額に対する米ドルのエクスポージャーの比率は、原則として高位を維持することを基本とします。
 - ・株式の実質的なエクスポージャーを高位に保つため、株価指数先物取引を活用する場合があります。
- ファンドは「ロボ・ジャパン マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。
- 「円投資型」「米ドル投資型」間でスイッチングができます。
- 原則、毎年3月および9月の23日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。
分配金額は、分配対象額の範囲内で、配当等収益等の水準および基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。
*委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

◆設定・運用は 野村アセットマネジメント

商号 野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
一般社団法人投資信託協会会員/一般社団法人日本投資顧問業協会会員
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員



投資リスク

各ファンドは、株式等を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により基準価額が下落することがあります。また、米ドル投資型は、外国為替に関するデリバティブ取引を行ないますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 2026年3月23日まで(2016年4月1日設定)
- 決算日および収益分配 年2回の決算時(原則、3月および9月の23日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1口単位(当初元本1口=1円)
または1万円以上1円単位
(ご購入コースには、分配金を受取る一般コースと、分配金が再投資される自動けいぞく投資コースがあります。原則、ご購入後にご購入コースの変更はできません。)
※お取扱コース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- スイッチング 「円投資型」「米ドル投資型」間でスイッチングが可能です。
*販売会社によっては、スイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、NISA(少額投資非課税制度)の適用対象ファンドにおいてNISAを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.3%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に下記の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。 【円投資型】 年1.595%(税抜年1.45%) 【米ドル投資型】 年1.606%(税抜年1.46%)
◆その他の費用・手数料	組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時、スイッチングを含む)	1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

＜分配金に関する留意点＞

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上りが小さかった場合も同様です。

ファンドの販売会社、基準価額等については、下記の照会先までお問い合わせください。

野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ 0120-753104 (フリーダイヤル)

<受付時間> 営業日の午前9時~午後5時

★インターネットホームページ★ <http://www.nomura-am.co.jp/>

＜委託会社＞ 野村アセットマネジメント株式会社

[ファンドの運用の指図を行なう者]

＜受託会社＞ 三菱UFJ信託銀行株式会社

[ファンドの財産の保管および管理を行なう者]

ファンドは、変動のある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他のいかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

商号 野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
一般社団法人投資信託協会会員/一般社団法人日本投資顧問業協会会員
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員

ロボ・ジャパン (円投資型) / (米ドル投資型)

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。